



こどもからおとなへ
診療の橋渡しのお手伝いをしています

お知らせ

2025/4/1

京都府より委託を受け京都府立医科大学附属病院に「京都府移行期医療支援センター」が設置されました。

センター概要

・移行期医療支援センターについて

子どものときに病気になって、大人になってからも続けて医療を受けなければならない患者さんは、多くの医療機関で治療を受けておられます。このような方々は、大人になってからも継続して医療を受けながら、就職、結婚、出産といった人生の重要なイベントに向き合うことになります。

これまでは、このような患者さんの診療を、大学病院などの小児科、小児外科、小児心臓血管外科といった子どもの専門医が、患者さんが大人になってからも引き続き担当してまいりました。しかし最近になって、患者さんが大人になっていくにあたり、次のような課題が明らかになってきました。

1. 大人になるまでに患者さんが自分の病気を十分に知って、ご家族にたよらずに自分で健康を管理して医療を受けていくことができるようになる必要がある。
2. 大人になって年を重ねるにつれて、子どもの専門医が不慣れな大人特有の病気にもかかるようになり、大人の専門医が診療する必要性が高まっていくが、子どもの専門医と大人の専門医の連携や引継ぎが難しいことがある。
3. 就職、結婚、妊娠や出産といったイベントに、医師だけでなく多くの立場の職種が協力して、多面的に対応していく必要がある。
4. 医療費の補助制度が子どもと大人で異なるため、これをスムーズに切り替えていく必要がある。

これらの課題を解決していくための医療を「移行期医療」と呼びます。

2025年4月、小児期発症慢性疾患患者の円滑な移行を支援するため、本院に京都府移行期医療支援センターが設置されました。

今後は府内の大学病院と地域の医療機関との連携体制を構築し、難病や重い病気を持った患者さんも自宅近くの成人診療科で安心して継続した医療を受けられるようにサポートを行ってまいります。

・活動内容

・移行期医療に関する相談対応

患者さんやそのご家族、医療機関等から、以下のような相談をお聞きしています。
お気軽にご相談ください。

- ・現在、小児慢性特定疾病医療費助成制度を利用しているが、成人後はどうしたらいいのか。
- ・その他の社会福祉制度を教えてほしい。
- ・パートナーがいるが、将来妊娠・出産することはできるのか。
- ・就労について相談がしたい。
- ・移行後の病院は自宅の近所にあるだろうか。

- ・移行期医療に関する医療関係者会議等の開催を通じた連携体制の構築
- ・移行期患者の受入が可能な成人期医療機関のネットワーク形成
- ・移行期医療に関する周知・啓発

京都府立医科大学附属病院における支援活動については、こちらをご覧ください。

京都府立医科大学附属病院 移行期医療支援センター